

平成 30 年度

市政モニターアンケート調査結果
【緑化の推進について】



長 崎 市
土木総務課

1. 調査の目的

長崎市では、緑豊かなまちの実現に向けて、緑化推進に係る事業を実施していますが、市民のかたが緑化についてどれくらい関心があり、どれくらい日頃活動しているのかを把握・分析し、今後の事業推進の参考にすることを目的として調査しました。

2. 調査の概要

調査期間：平成30年5月30日～平成30年6月13日

送付数：230人（郵送モニター 189人 インターネットモニター 41人）

回答率：92.2%（212人）

（郵送モニター 183人 インターネットモニター 29人）

3. 調査結果

過去1年に、花や緑を増やす取り組みを行なったことがあると回答したかたの割合は、約4割でした。中でも、若年層については、花や緑を増やす取り組みを行っている割合は高齢者層と比較して低く、若年層への働きかけをより工夫する必要があるのではないかと考えます。

取り組み内容については、「自宅の庭やベランダなどへの植栽」の割合が最も多く、プライベートな場所での実施が、花や緑を増やすきっかけとして取り組みやすいということがうかがえます。こうした状況を考慮して、花や緑を増やす取り組みを行っていないかたが取り組みをはじめのきっかけづくりを進める必要があるのではないかと考えます。

次に、花や緑を増やす活動を推進するための機会や制度で有効だと思う手段については、「緑化イベントの開催」を支持する割合が有効回答数の約7割と最も多い結果となりました。ただし、実際の緑化イベントへの参加・手伝いを行ったというかたは、低い傾向にあったことから、これらのギャップについて分析し、今後の事業展開において工夫が必要であると考えています。

その他、「緑化活動に必要な花苗の提供」、「緑化に関する情報」を受けられることができる機会や制度づくりも有効であると回答した人の割合も高かったことから、これらの要素を念頭において、緑豊かなまちの実現に向けた事業を、工夫してバランスよく行うことが効果的であるのではないかと考えます。

次に、緑化活動に役立つと思われる情報の伝達方法の希望については、市の広報紙である「広報ながさき」と「テレビ・ラジオ」がいずれも有効回答数の7割を超え、高い結果となりました。一方、「ホームページ」や「SNS（フェイスブック・ツイッター）」については、2割弱でした。全体を見た場合には、有効な手立てとして定着していない傾向がうかがえますが、若年層になるとその割合は、高齢者層と比較して高い傾向が確認できました。

今後とも、「広報ながさき」などの基本的なツールを活用していくほか、年代に

応じて、あらゆる方法での周知を模索しながら、情報を伝達していく必要があると考えます。

こうした、今回の調査結果を参考に、緑豊かなまちの実現に向けて取り組みのきっかけづくりや気運の醸成など、事業のあり方について検討を行いたいと思います。

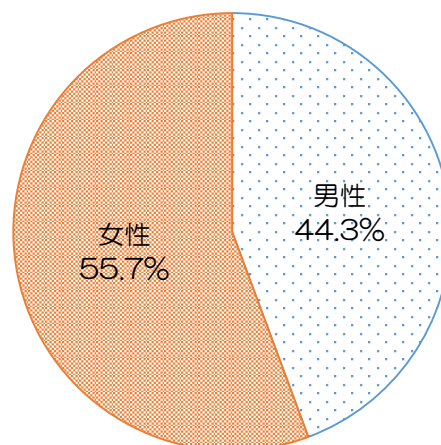
4. 調査結果の見方

調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点第1位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

また、複数回答可とした設問においては、合計が100%を上回る場合があります。

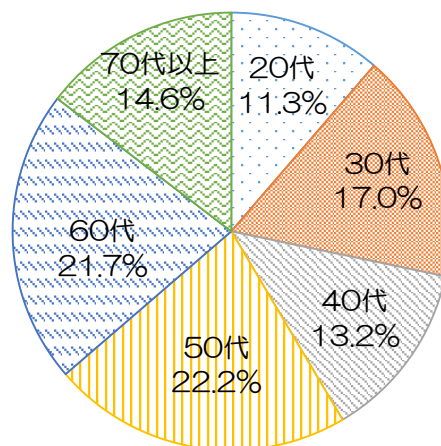
問1 あなたの性別をお答えください。

選択肢	回答者数	割合
男性	94人	44.3%
女性	118人	55.7%
合計	212人	100.0%



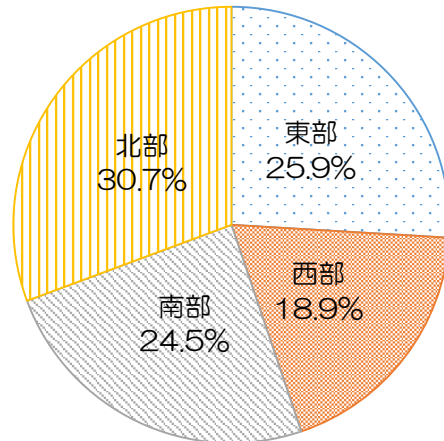
問2 あなたの年齢を選択してください。

選択肢	回答者数	割合
20代	24人	11.3%
30代	36人	17.0%
40代	28人	13.2%
50代	47人	22.2%
60代	46人	21.7%
70代以上	31人	14.6%
合計	212人	100.0%



問3 お住まいの町名を教えてください。

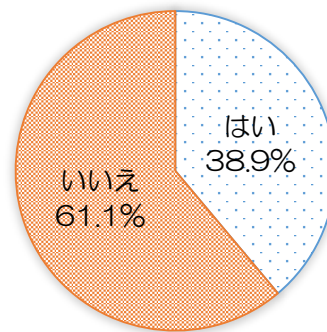
選択肢	回答者数	割合
東部	55人	25.9%
西部	40人	18.9%
南部	52人	24.5%
北部	65人	30.7%
合計	212人	100.0%



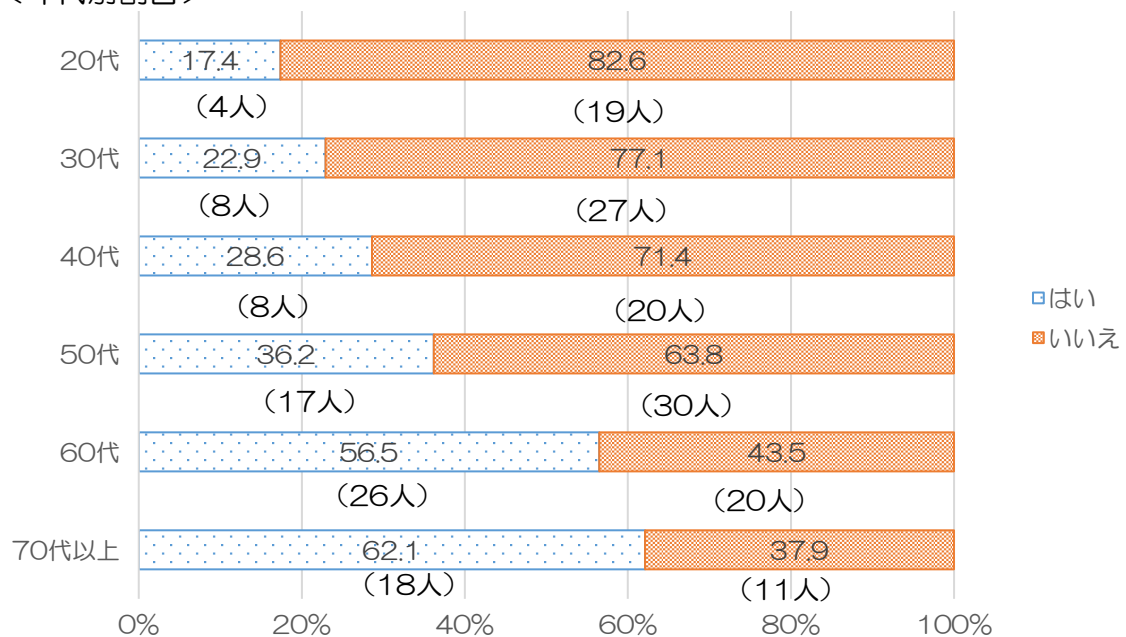
※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

問10 過去1年以内に花や緑を増やす取り組みを行なったことがありますか。

選択肢	回答者数	割合
1 はい	81人	38.9%
2 いいえ	127人	61.1%
合計	208人	100.0%



<年代別割合>



過去1年以内に花や緑を増やす取り組みを行なったことがあると回答したかたが、約4割であり、全体として取り組みを行わなかったかたの割合が上回っていることが確認できました。

ただし、年代別にみると、60代、70代以上に関しては取り組みを行なったことがあると回答したかたの割合が上回っている状態です。一方、20代から50代については、「はい」と答えたかたの割合は半数以下であり、さらに年代が低くなるほど、その割合は低くなる傾向があります。

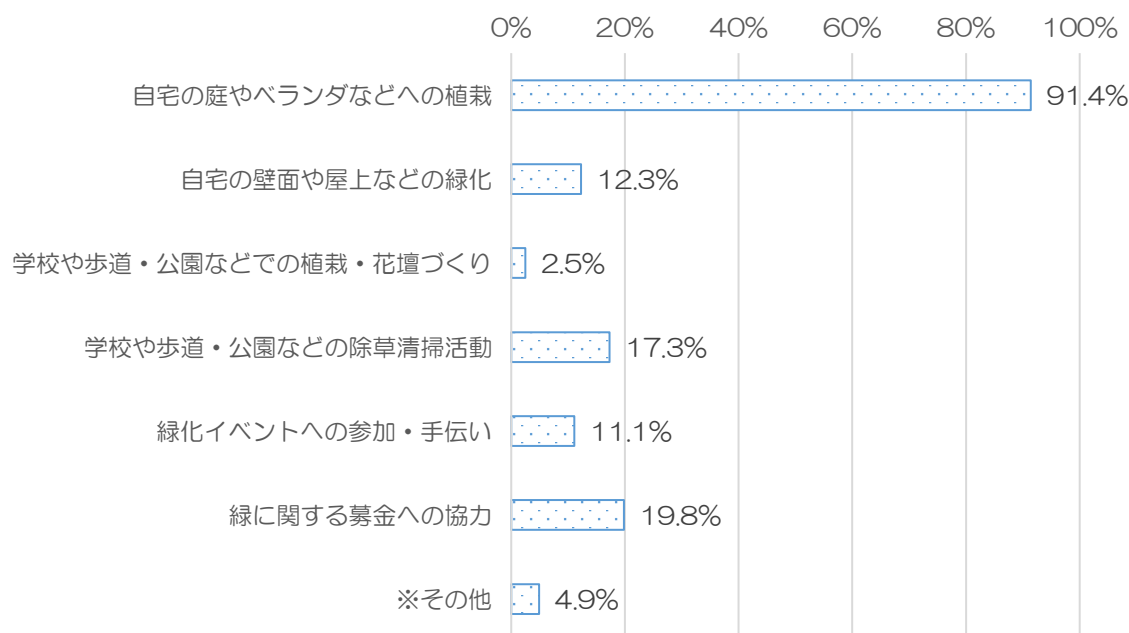
引き続き緑化に関して啓発を行い、緑豊かなまちの実現に向けたきっかけづくりや気運の醸成を行う必要があると考えます。中でも、若年層への働きかけをより工夫する必要があるのではないかと考えます。

問11 「問10」で「はい」と回答したかたに質問です。

過去1年以内に行なった取り組みをお聞かせください。(複数回答可)

選択肢	回答者数	割合
1 自宅の庭やベランダなどへの植栽	74人	91.4%
2 自宅の壁面や屋上などの緑化	10人	12.3%
3 学校や歩道・公園などでの植栽・花壇づくり	2人	2.5%
4 学校や歩道・公園などの除草清掃活動	14人	17.3%
5 緑化イベントへの参加・手伝い	9人	11.1%
6 緑に関する募金への協力	16人	19.8%
7 その他	4人	4.9%

有効回答数=81人



※＜その他の回答＞

- ・ 苗・種を買って友人などに贈る
- ・ 職場の植栽、花壇づくり
- ・ 市民農園で家庭菜園
- ・ 指導除草清掃作業

「自宅の庭やベランダなどへの植栽」との割合が合計は91.4%と最も多く、自宅などのプライベートな場所での実施が、きっかけとして取り組みやすいということがうかがわれます。

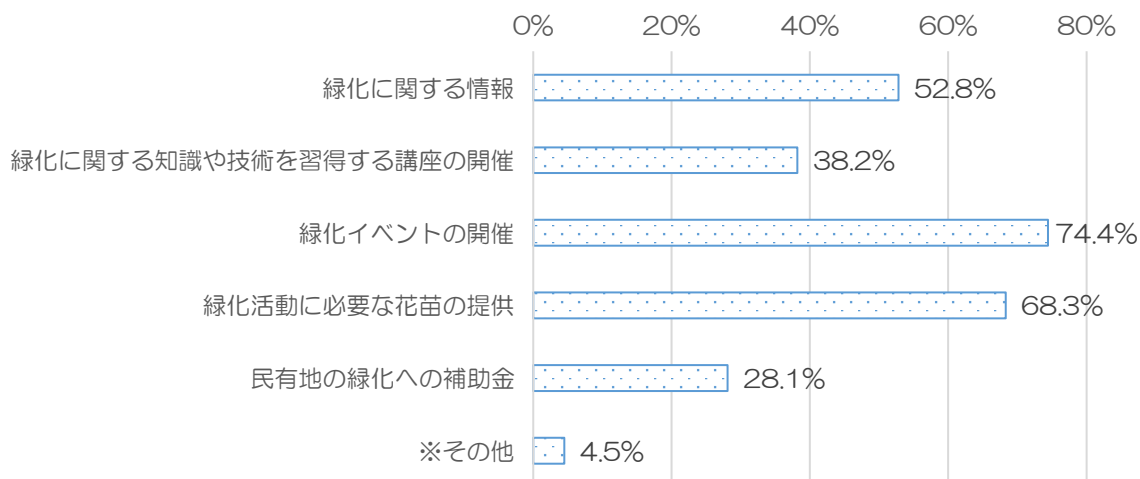
次いで、「緑に関する募金への協力」が19.8%、「学校や歩道・公園などの除草清掃活動」17.3%と続きます。

こうした状況を考慮して、今後、花や緑を増やす取り組みを行っていないかたが取り組みをはじめめるきっかけづくりを進める必要があるのではないかと考えます。

問12 花や緑を増やす活動をする場合、どのような機会や制度が有効だと思いますか。特に有効と思われるものを3つまで選んでください。

選択肢	回答者数	割合
1 緑化に関する情報	105人	52.8%
2 緑化に関する知識や技術を習得する講座の開催	76人	38.2%
3 緑化イベントの開催	148人	74.4%
4 緑化活動に必要な花苗の提供	136人	68.3%
5 民有地の緑化への補助金	56人	28.1%
6 その他	9人	4.5%

有効回答数=199人



※＜その他の回答＞

- ・市有地の緑化活動の充実
- ・緑化する場所の提供
- ・観光地の緑化推進
- ・企業への政策強化
- ・雑草を減らす-除草活動の推進

花や緑を増やす活動を推進するための機会や制度で有効だと思ふ手段については、「緑化イベントの開催」を支持する割合が有効回答数の74.4%と最も多い結果となりました。

つまり、きっかけとなりうる場については、「緑化イベントの開催」が効果的であると考えているかたが多いことが確認できます。ただし、【問11】の設問において、過去1年以内に「緑化イベントへの参加・手伝い」に取り組んだかたの割合は、11.1%と低い傾向があり、「緑化イベントの開催」は、きっかけづくりには有効だと考えますが、実際の参加が少ないという傾向も確認できました。これらのギャップについて分析し、今後の事業展開において工夫が必要であると考えています。

ついで、「緑化活動に必要な花苗の提供」があればいいと思ふ人数の割合が68.3%であり、資材の提供を行うことが有効であると思ふ人数の割合が高い傾向が確認できました。

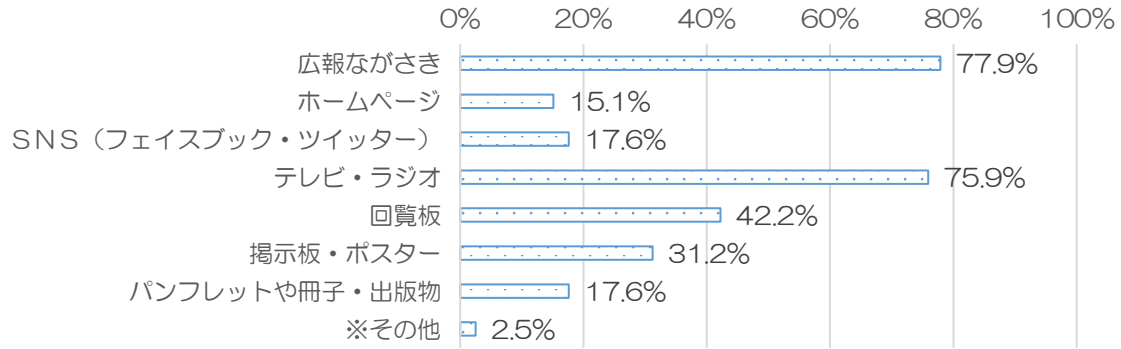
3番目には、「緑化に関する情報」が52.8%であり、情報の発信が有効であると思ふ人数の割合が高い傾向が確認できました。

これらの要素を念頭において、緑豊かなまちの実現に向けた事業を、工夫してバランスよく行うことが効果的であるのではないかと考えます。

問13 緑化活動に役立つと思われる情報を長崎市がお知らせする場合、どのような手段で行うことを希望しますか。3つまで選んでください。

選択肢	回答者数	回答者数
1 広報ながさき	155人	77.9%
2 ホームページ	30人	15.1%
3 SNS（フェイスブック・ツイッター）	35人	17.6%
4 テレビ・ラジオ	151人	75.9%
5 回覧板	84人	42.2%
6 掲示板・ポスター	62人	31.2%
7 パンフレットや冊子・出版物	35人	17.6%
8 その他	5人	2.5%

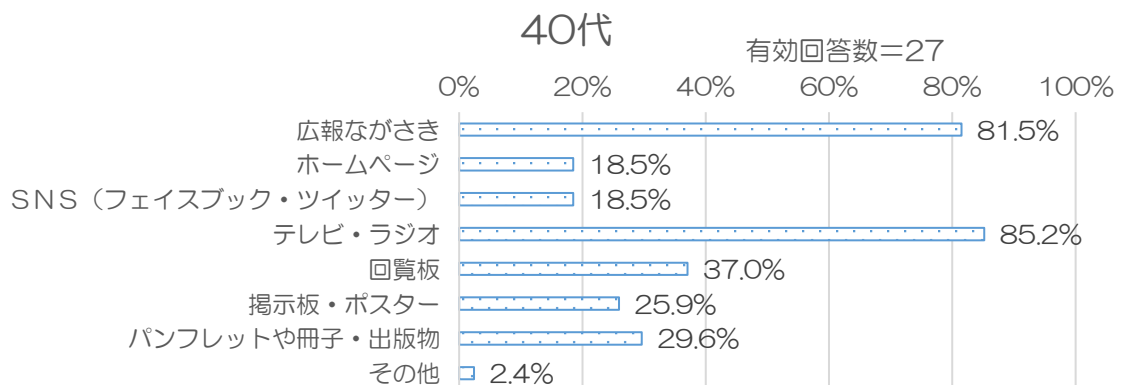
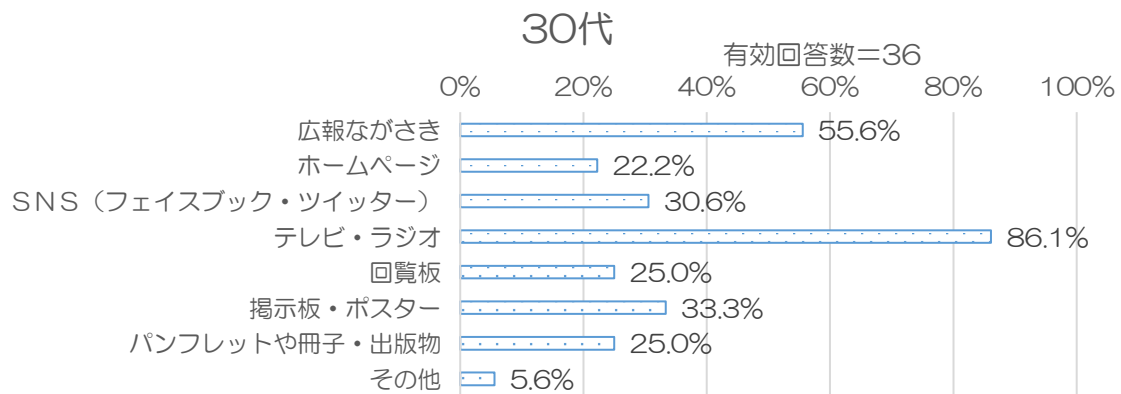
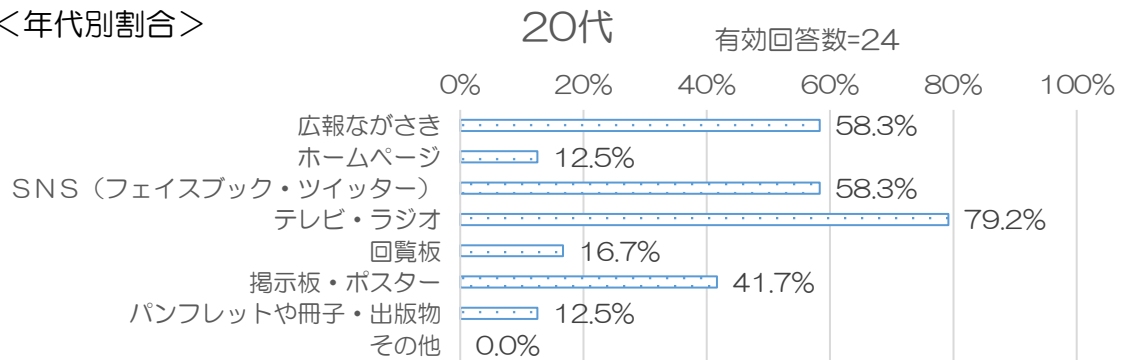
有効回答数=199人

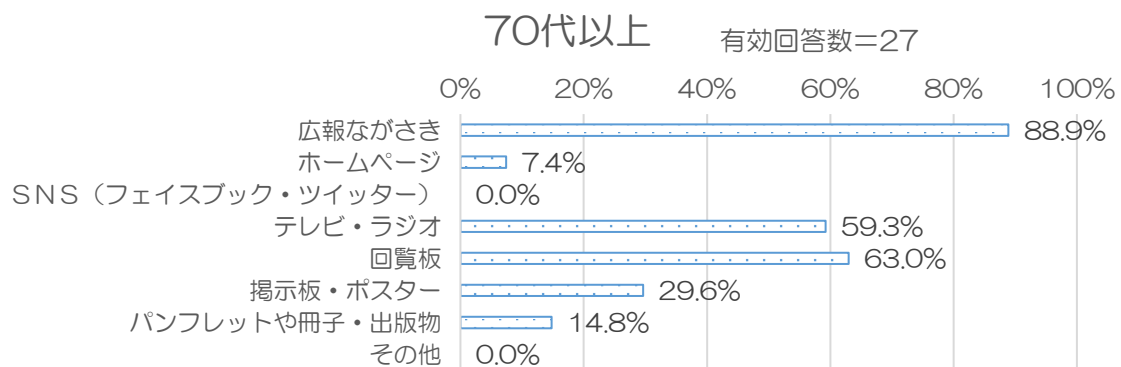
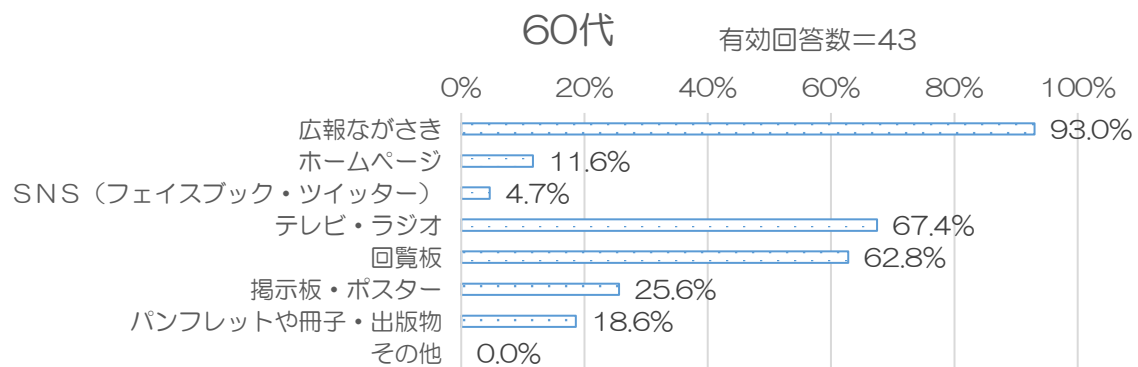
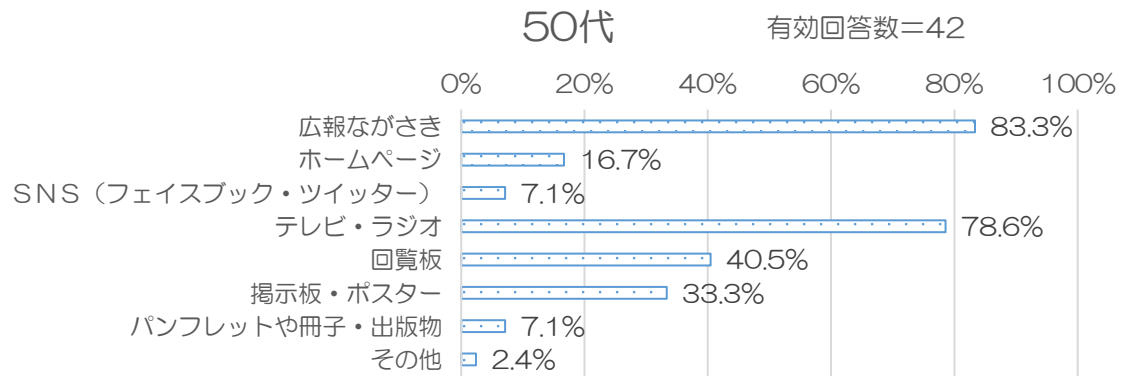


※＜その他の回答＞

- ・イベント
- ・保育園や小学校など子どもたちへの周知
- ・新聞
- ・LINE

＜年代別割合＞





緑化活動に役立つと思われる情報の伝達方法の希望については、市の広報誌である「広報ながさき」が、77.9%、次いで「テレビ・ラジオ」を希望するかたの割合が75.9%と最も高い結果となりました。ついで、「回覧板」が42.2%、「掲示板・ポスター」が31.2%と続いています。

一方、「SNS (フェイスブック・ツイッター)」については希望するかたの割合が17.6%でした。全体を見た場合には、有効な手立てとして定着していない傾向が伺えますが、若年層になるとその割合は高齢者層と比較して高い傾向が確認できました。

今後とも、「広報ながさき」などの基本的なツールを活用していくほか、年代に応じて、あらゆる方法での周知を模索しながら、情報を伝達していく必要があると考えます。